

なにとなく 君に待たるる 心地して 出でし花野の 夕月夜かな

[現代語訳]

なんとなく恋しい人が待っていてくれるような気がして、花の咲く野原に出てみると、空には美しい夕暮れの月が浮かんでいることでした。

髪五尺 ときなば水に やはらかき 少女(おとめ)ごころは 秘めて放たじ

[現代語訳]

五尺もある長い黒髪を解いて水に放つと、やわらかに水に漂うことでしょう。でも私の心の内は人には秘めて解き放つことはありません。

清水へ 祇園をよぎる 桜月夜 こよひ逢ふ人 みなうつくしき

[現代語訳]

清水に行こうと祇園を通り過ぎると、桜が咲き誇る朧月夜。今夜すれちがう人々は、誰もみな美しく見えました。

やは肌の あつき血汐に ふれも見で さびしからずや 道を説く君

[現代語訳]

この私の柔らかい肌の熱い血のたぎりに触れてもみないで、さびしくはないのですか？人の道を説いているあなた。

くろ髪の 千すぢの髪の みだれ髪 かつ思ひみだれ 思ひみだるる

[現代語訳]

黒髪の千筋の髪が乱れるように、私の思いも乱れに乱れています。